

●今月号の元気な話題●

- * 「亶理山元伊達美味（だてうま）フェア」を開催しました
【地方振興部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- * 体験イベントを通して手作りみその良さをPR
【農業振興部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- * 農山漁村地域復興基盤総合整備事業
「手樽地区」の安全祈願式が開催されました
【農業農村整備部】・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- * 地域営農推進研修会を開催しました
【亶理農業改良普及センター】・・・・・・・・ 3
- * 宮城県漁業協同組合仙南支所（亶理）の水産加工研究会が
農林水産大臣賞を受賞しました
【水産漁港部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- * 残っているハクチョウがいます～1羽でも元気に過ごしています～
【林業振興部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- * 「仙台塩釜水産加工品個別商談会inとちぎ」を開催しました
【地方振興部・水産漁港部】・・・・・・・・・・ 4

みやぎ水産の日 ●今月のおすすめ● 【みやぎサーモン （ギンザケ）】



実はギンザケ養殖は宮城県発祥！
生産量は全国の9割を占めています。
外国産サーモンに比べてほどよく脂が
乗り、さっぱりした味わいが特徴です！

「亶理山元伊達美味（だてうま）フェア」を開催しました

【地方振興部】

「食」材王国みやぎ」推進の一環として、2月26日から3月2日まで（28日を除く）の4日間、県と亶理山元商工会との共催で、県庁1階ロビーにおいて「亶理山元伊達美味（だてうま）フェア」を開催しました。

亶理山元地区は、“東北の湘南”と呼ばれる温暖な気候と豊富な日照量により、東北一のイチゴの生産地として有名ですが、そのほかにも、県内一の生産量を誇るリンゴや多様な品種を生産しているイチジク、本州では唯一の産地であるアセロラなど、様々なフルーツの栽培が盛んに行われています。

亶理山元商工会では、これらの豊富な地域資源を活用するため「わたりやまもとブランド」を立ち上げ、地元の果物を使用したスイーツを管内の事業者と共に開発しました。

フェアでは、平成29年に新開発した9種のスイーツのうち、イチゴ・リンゴ・イチジクを使用した6商品が販売されました。各日とも終了時刻を待たずに完売してしまうなど好評を博し、多くの皆様にフルーツ王国わたり・やまもとの魅力を広めることができました。

販売された新開発スイーツ



フェアのポスター

体験イベントを通して手作りみその良さをPR

【農業振興部】

仙台市若林区に位置する、農事組合法人仙台イーストカントリーでは、米、大豆の生産に加え、自分達で作った農産物を利用して農産加工や農家レストランの営業を行い、6次産業にも取り組んでいます。

農産加工の中心であるみそについては、自分達で育てた大豆とひとめぼれの米麴を使った天然醸造みそを手作りしていますが、消費者の食生活の変化によりみその販売量も減少していました。

そこで、平成29年度に6次産業部門の課題解決を行い、その一環で、みそ加工体験の商品化に取り組みました。



みその仕込みに励む参加者

これまでも、地元の小学校で食育の一環として、みそ作り体験の出前授業をボランティアで行っていました。こうした加工体験イベントを通じて、農と食に対する興味・関心を高め、消費の掘り起こしができるのではと考えるようになりました。

そこで、みそに対する理解を深め、手作りみそ本来の味を知ってもらう「Myみそワークショップ」を開催しました。

1～3月に計3回開催されたワークショップには、毎回約40名が家族連れで参加し、ときおり歓声をあげながら、楽しい雰囲気のみそを仕込みました。終了後には「美味しく出来上がるのが楽しみ」「思ったよりも大変だけど、その分ありがたい食べられそう」といった感想が出されました。

仕込んだみそはそれぞれ自宅に持ち帰り、途中で「切り返し」などの手入れを行いながら、1年後に食べ頃を迎えます。



農山漁村地域復興基盤総合整備事業 「手樽地区」の安全祈願式が開催されました

【農業農村整備部】

3月23日に松島町の手樽海浜公園において、農山漁村地域復興基盤総合整備事業「手樽地区」の安全祈願式が開催されました。これは工事の無事故と手樽地区の復興を願い、施工業者の災害防止連絡協議会が主催したものです。

手樽地区では、東日本大震災により広域的な地盤沈下が発生し、用水路及び排水路の通水機能の低下による用水不足や農地の排水不良が発生しているうえ、地下水及び幹線排水路への塩水流入が発生し、安定的な営農の継続が難しい状況になっています。そこで当事業により、農地の大区画化、道路・用排水路、暗渠(あんきょ)排水等の整備を行い、農地の汎用化、水管理の合理化を図るとともに、農地の利用集積と経営体の育成・支援を一体的に行い、効率的かつ安定的な農業経営の確立を図ることで、松島町の震災復興計画の実現を目指しています。



祭りの様子



鎮入れの様子

地域営農推進研修会を開催しました

【農業振興部（巨理農業改良普及センター）】

巨理普及センター管内の津波被災地では、大型機械などを用いて生産効率を高めるために、これまでより大きな区画での水田の再整備が進んでいます。また、被災地域では大区画水田を利用する農業法人が多数設立されています。

こうした情勢を踏まえ、当普及センターでは2月16日にハナトピア岩沼において、管内の水田を利用する土地利用型農業法人などを対象に地域営農推進研修会を開催しました。今回の研修会では、大区画水田での「水稻水口流入施肥技術(※1)」や、比較的容易に取り組める「水稻育苗パイプハウスを活用した野菜の養液土耕栽培」について、技術提供を行いました。

参加者はそれぞれが抱える問題の解決や経営のさらなる発展のために熱心に研修を受講していました。

※1 肥料を灌漑水と一緒に水田に流し込む技法



熱心に研修を受講する参加者

宮城県漁業協同組合仙南支所（巨理）の水産加工研究会が農林水産大臣賞を受賞しました 【水産漁港部】

第23回全国青年・女性漁業者交流大会が東京都内で開催され（3月1日から3月2日）、宮城県漁業協同組合仙南支所（巨理）水産加工研究会（以下、「水産加工研究会」という）が「浜に笑顔を取り戻せ！～震災を乗り越えて、浜っ子かあちゃん市6年の軌跡～」と題して活動実績を発表しました。

全国の青年・女性漁業者が日頃の活動を発表するこの大会では、5部門に分かれて発表が行われました。10課題がエントリーする「流通・消費拡大部門」において、震災後に地元の魚に触れる機会が減って魚離れが懸念されたことから「浜っ子かあちゃん市」を再開したこと、住居移転等で少なくなった部員でも効率的に収入を得られるようマーケティング調査を実施したこと、調査結果に基づき工夫しながら活動していることなどについて、水産加工研究会の木村光子会長が発表しました。販売サイズやパッケージ内容の工夫等により徐々に売上が上がってきたこと、若い部員も増えていること、何より震災からの復興に向けて浜の女性が頑張っていることが審査員に高く評価され、部門トップの農林水産大臣賞を受賞しました。

水産加工研究会が作った加工品は、「きずなぽーとわたり（巨理町荒浜築港通り6-22）」1階の「鳥の海ふれあい市場」で毎週土・日曜日に販売しています。カレー類の唐揚げ、天ぷらをはじめ、地元の魚介類を使った商品が店頭に並びますので、是非、足をお運びください。

第23回全国青年・女性漁業者交流大会



授賞式の様子



まがれいのからあげ

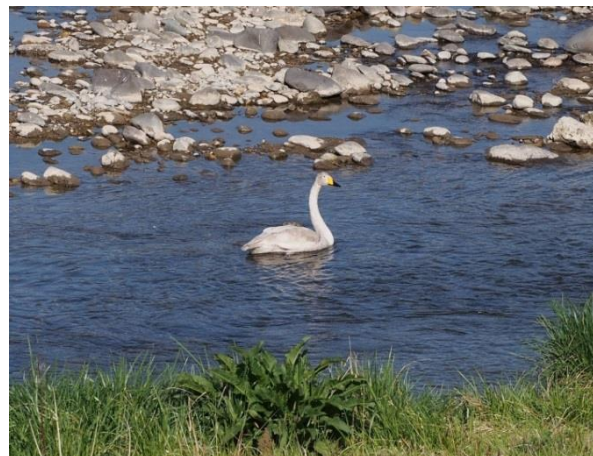
残っているハクチョウがいます ～1羽でも元気に過ごしています～

【林業振興部】

今年も野山に花々が咲き、ツバメなどの夏鳥が次々と日本に渡って来る季節になりました。一方で、ハクチョウ類やカモ類などの冬鳥は北へ帰り、冬の間にごやかだった水辺はすっかり静かになっています。しかし、管内には数羽のハクチョウ類が残っていて、林業振興部には「仲間はみんな帰ってしまったのにひとりぼっちでかわいそう」「暑さに耐えられないのではないかな」など、心配した方々から保護してほしいという連絡が多数寄せられています。連絡をいただいた個体は、職員が状況を確認したところすべて自由に動き回れる状態だったので、保護せずに経過観察をしているところです。

県内には何らかの問題があって北へ帰らず、通年を河川で過ごしているハクチョウ類が複数いますが、いずれも問題なく夏を越し、冬には仲間と再会しているようです。また、水面にいる状態の野鳥を人間が捕獲することは大変難しく、無理に追いかけて回すとかえって怪我をさせてしまうことにもなりかねません。

「夏のハクチョウ」は違和感があると思いますが、暖かく見守っていただきますようお願いいたします。



元気に泳げるよ！そっと見守ってほしいなあ。

「仙台塩釜水産加工品個別商談会inとちぎ」を開催しました

【地方振興部・水産漁港部】

3月6日、栃木県宇都宮市内において、東日本大震災により被災した管内の水産加工業者の販路開拓・拡大支援の一環として、栃木銀行と仙台銀行両行の協力のもと、商談会を開催しました。

当日は、栃木県内に事業所を有するスーパー、百貨店、卸売業等のバイヤー17社と仙台地方振興事務所管内の水産加工業者等21社により、事前マッチングによる102件の個別商談と各社自慢の商品見本を前にしてフリー商談が行われました。



各社自慢の商品の展示も行いました

参加したバイヤーからは「美味しい商品、見栄えの良い商品が多くありました。」、「魅力的な商品が多く、今後の取引を検討したい。」など取引に前向きな意見がありました。また、参加した管内水産加工業者からは、「県内の展示会だと限られたバイヤーとしか会えないことも多いので、これまで接点のなかったバイヤーと商談できて良かった。」などの意見があり、販路開拓の機会として有意義な商談会となりました。今後の継続的な商談により、多数の取引成約が期待されます。

商談会の様子



問合せ先：宮城県仙台地方振興事務所地方振興部（担当：首藤）

TEL：022-275-9140 FAX：022-275-0296 E-Mail：sdsinbk2@pref.miyagi.lg.jp

HP：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sdsgsin-e/>

※次号は平成30年6月下旬発行予定です。

仙台・宮城元気ニュース [4]